



未来へつなぐ
あだちプロジェクト



子どもの健康が未来をつくる

平成29年5月29日

こころとからだの健康づくり課



あだち広報

2013年9月10日号



なぜ
足立区民の健康寿命は
都平均より約**2歳**短いのか

その解決策は
裏面に

足立区民の健康寿命は都民の平均より約2歳短いことをご存知でしたか？
区では、糖尿病をはじめとする生活習慣病がその原因であると分析しています。
今後10年をかけて、区はその解決に向けて取り組んでいきます。

自覚症状は
無かった

若い頃からスポーツをやっていたので健康には自信がありました。だから健診の結果を軽く受け止めていたんです…
(区内在住Tさん)

撮影協力：足立区医師会





「子どもの貧困対策実施計画」

プロジェクトの3本柱

柱立て1 教育・学び

学校を「プラットフォーム」に、教育による学力保障や関係機関との連携など学びの環境整備や居場所づくりなど総合的に取り組む。

柱立て2 健康・生活

妊娠期から切れ目ない支援を行うとともに、健康格差の縮小を図る。また、保護者や若年者の社会的孤立を予防する。

柱立て3 推進体制の構築

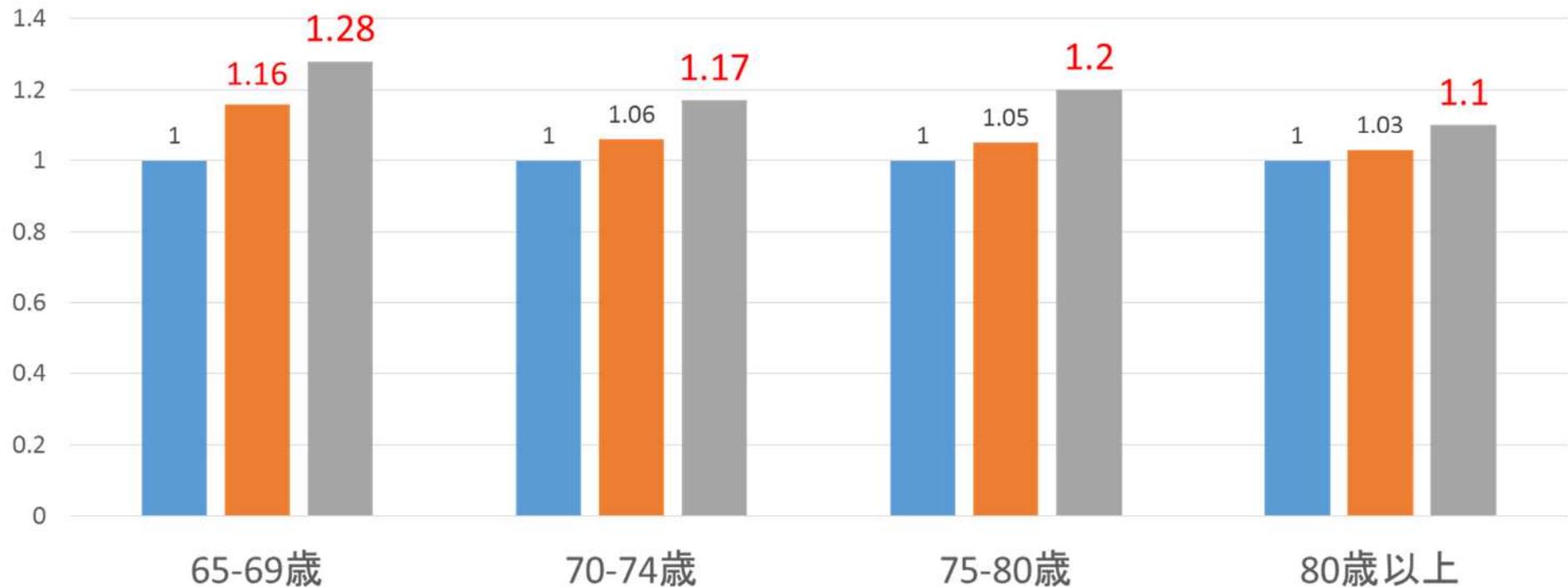
相談機能の連携強化、様々な調査による実態把握・分析、計画の見直し、国・都への積極的な働きかけ、地域やNPO等との連携

子どもの貧困の長期的影響

子ども時代の生活水準が高い人を1として 生活の自立度が低下する率

子ども期のSESと高次ADL低下リスク

■ やや高いー高い ■ 中程度 ■ 低いーやや低い



年齢、性別、身長、成人期のSES、健康行動、疾患の有無、婚姻状況、独居状況を調整

Fujiwara et al, J Gerontol Med Science, 2014



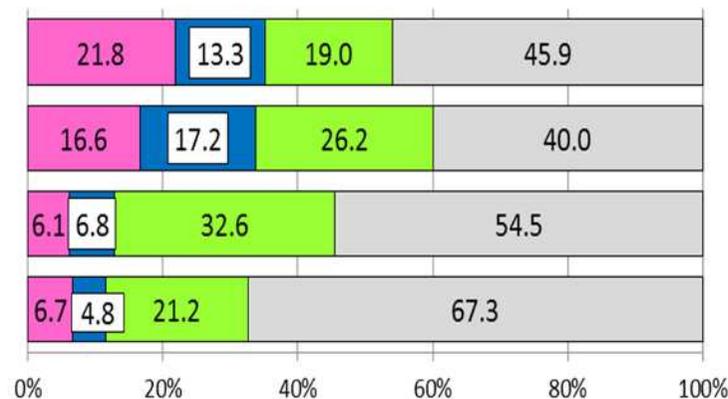
「子どもの健康・生活実態調査」から
足立区に住んでいれば
自ずと健康になる
健康づくり対策へ

「小中学生のむし歯」の状況

非生活困難



生活困難



■5本以上 ■3~4本 ■1~2本 □なし

■5本以上 ■3~4本 ■1~2本 □なし

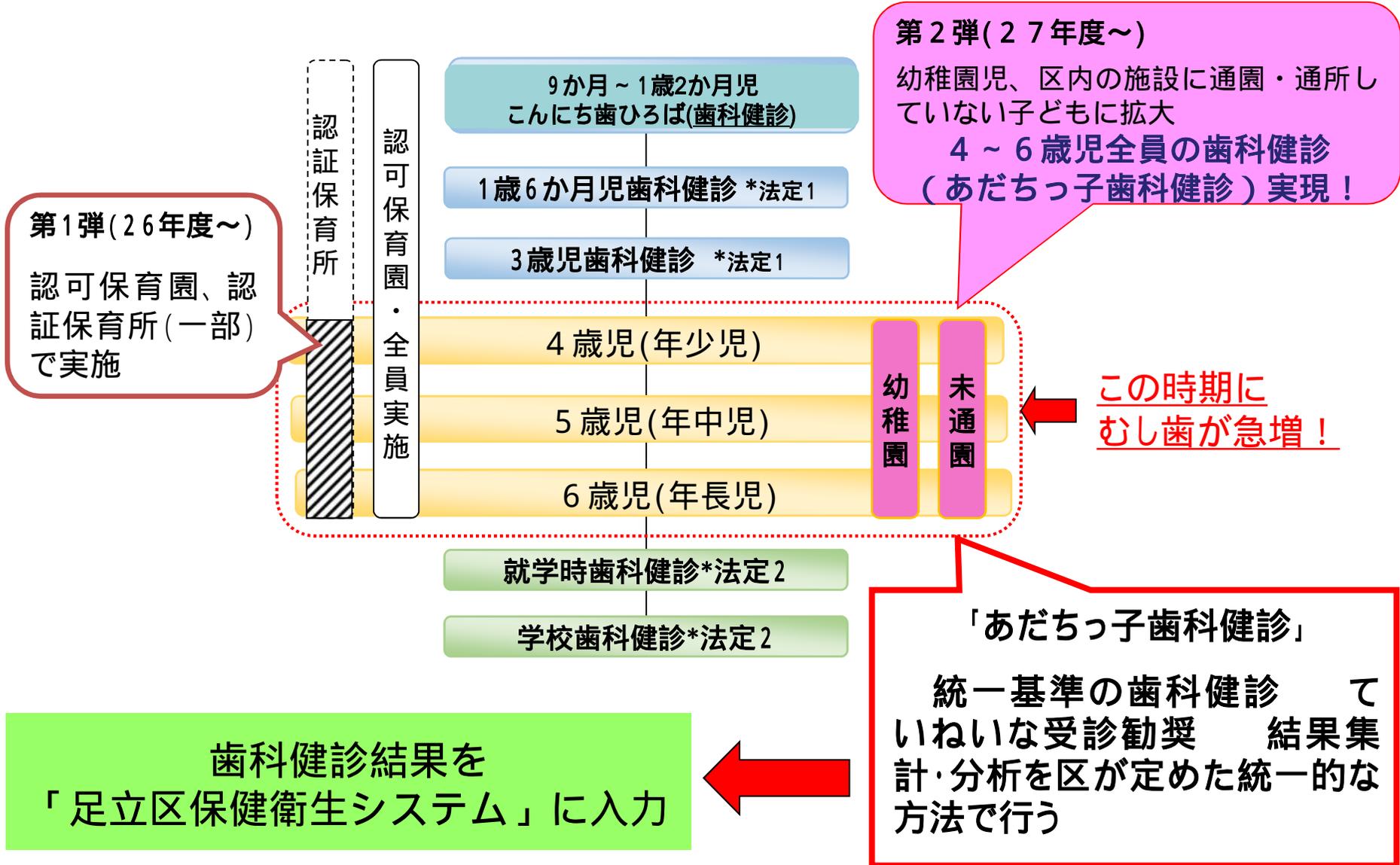
小学校1年生のむし歯がある子どもの割合と23区順位



口腔崩壊状態にある8歳男児の口腔
(大阪府歯科保険医協会提供)

	足立区	23区順位	特別区
平成25年	47.8%	23位	39.4%
平成26年	43.7%	22位	37.0%
平成27年	41.8%	22位	34.9%
平成28年	40.2%	23位	33.1%

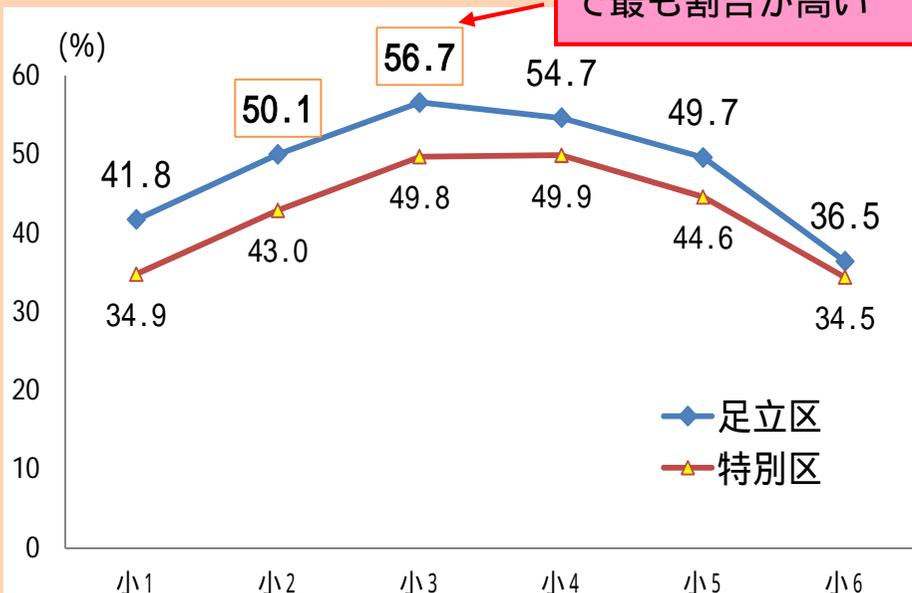
「あだちっ子歯科健診」とは 歯科健診機会の平等でむし歯を減らす



「小学生のむし歯」の状況

平成27年度学校歯科健診結果

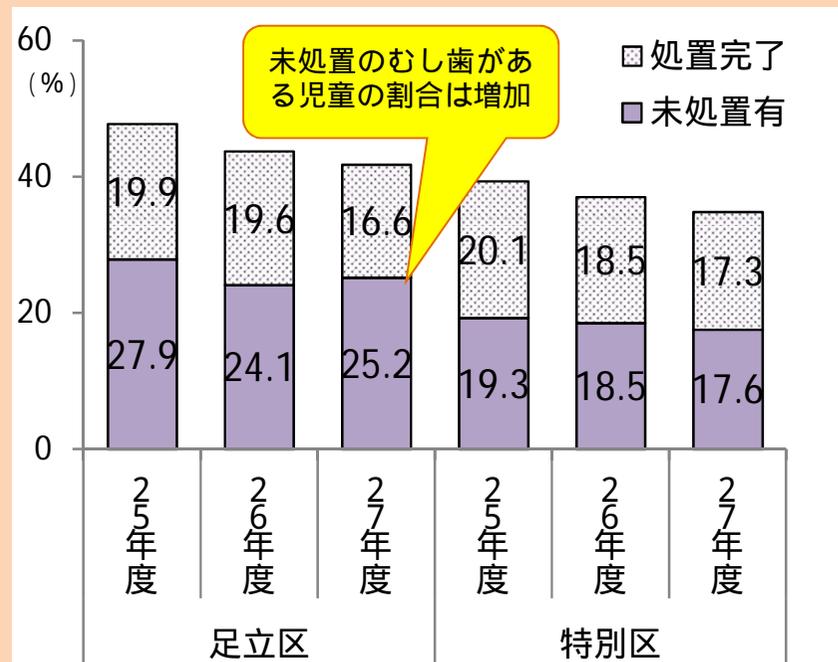
むし歯がある児童の割合



小2、小3は特別区で最も割合が高い

すべての年齢で、特別区平均を上回っている

小学1年生の未処置のむし歯がある児童の割合



未処置のむし歯がある児童の割合は増加

未処置歯がある小学1年生の割合は、特別区平均を上回っている

生えはじめの永久歯(6歳臼歯)を守るために

小1、小2
対象

永久歯フッ化物塗布事業(モデル事業)

6歳臼歯の「個別歯みがき指導およびフッ化物塗布」を実施します

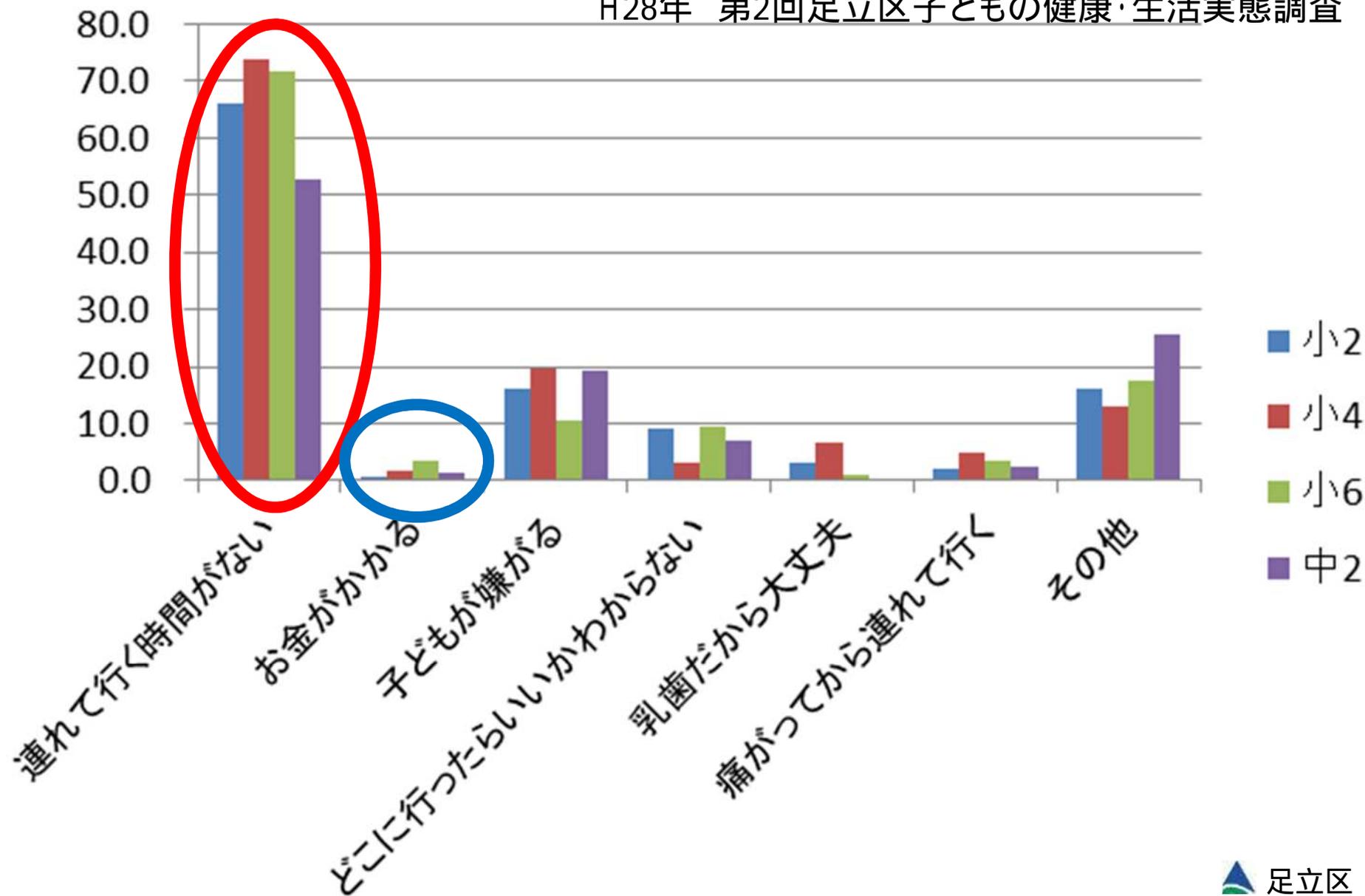
6歳臼歯のむし歯予防対策強化!



足立区

歯医者にすぐに連れていけない理由

H28年 第2回足立区子どもの健康・生活実態調査



モデル校(9校)で実施します(平成29年度～31年度)

1 対象者

小学1、2年生で、学校歯科健診時に下記 ~ すべてに該当する児童
6歳臼歯に未処置のむし歯がない
保護者の希望がある
学校歯科健診で、歯科医師の指示がある

2 実施内容

「6歳臼歯」の個別歯みがき指導

→ 「6歳臼歯」にフッ化物を塗布

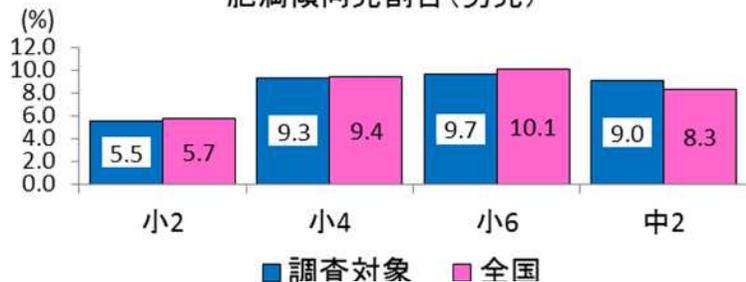
春・秋の歯科健診時に 実施予定



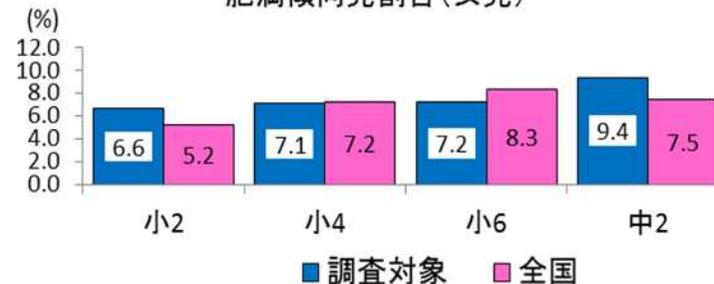
小学3年生の「6歳臼歯のむし歯り患率減少」を目指します！

「小中学生の肥満・食事」の状況

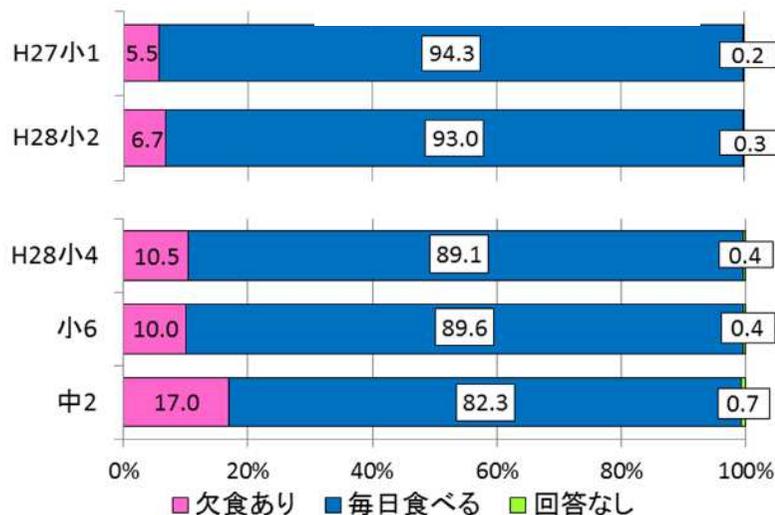
肥満傾向児割合(男児)



肥満傾向児割合(女児)



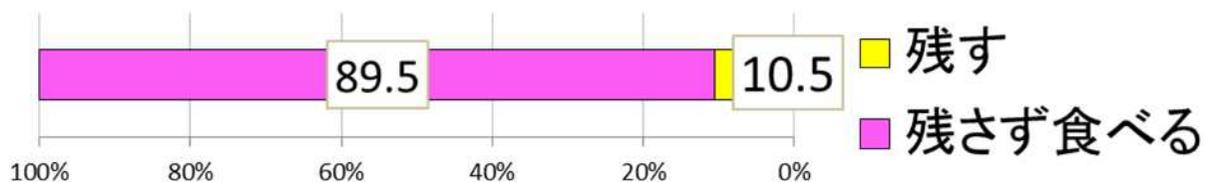
朝食摂取



家庭での食事づくり



小2 給食摂取状況



足立区糖尿病対策アクションプラン あだちベジタベライフ



おいしい給食・食育対策編

—「あだち食のスタンダードde元気」宣言—



【課題1】朝食の欠食、野菜摂取量の不足、ベジ・ファーストの未浸透など、望ましい食習慣が定着していない

【課題2】食塩、菓子・甘味飲料の過剰摂取などが、糖尿病をはじめとした生活習慣病につながっている

【課題3】料理をしない家庭が増え、食育機能が低下している



課題解決のために…

【取組み1】1日3食野菜を食べるなど、望ましい食習慣を身につける

食に対する関心や意欲があり、野菜を食べる、野菜から食べる、朝食を毎日食べるなどの健康的な食習慣を身につける

【取組み2】栄養バランスの良い食事を選択できる

野菜を含む栄養バランスの良い組み合わせを選択できる

【取組み3】簡単な料理を作ることができる

ごはんが炊ける、インスタントに頼らずみそ汁が作れる
目玉焼き程度のフライパン料理ができる

簡単な料理を作り、家族や友人と食事をする機会を増やす

保育園～高校まで 調理体験



「ひと口目は野菜から」

子どもたちが中学卒業時に
食の自立ができるような支援



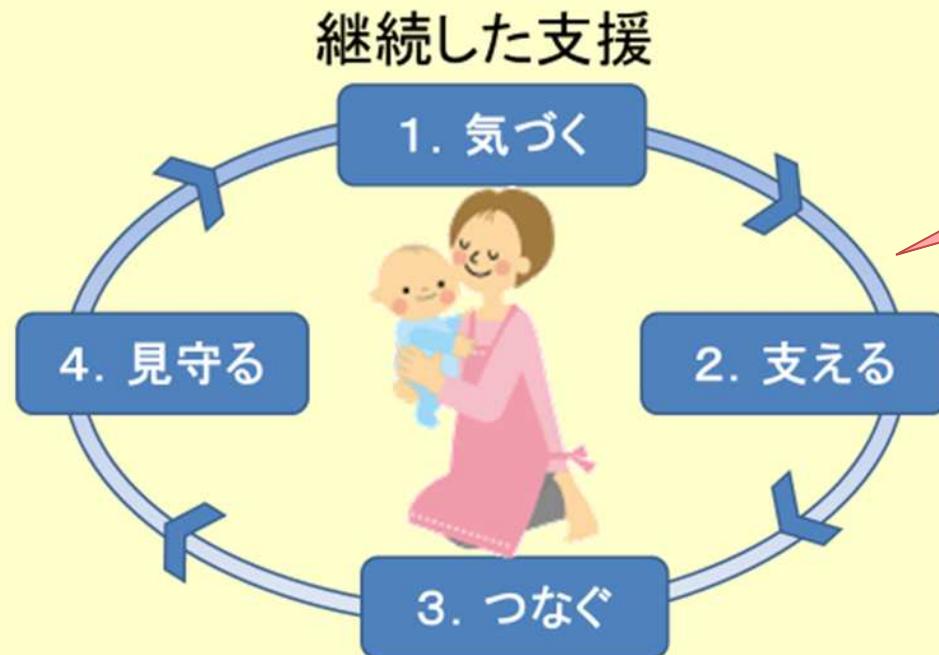
ごはんが炊ける
みそ汁が作れる
目玉焼き程度の料理ができる

ぜひ、地域の皆様のご協力をお願いいたします！

本当に困ったときに保護者に相談できる相手がいると子どもの健康に及ぼす生活困難の影響を軽減することができる可能性がある

あだちスマイルママ & エンジェルプロジェクト (ASMAP)

母子保健コーディネーターが等が妊娠時から、母子ともに健やかに暮らせるよう応援します。



4つのポイント



気づくためのしくみ

妊娠届のアンケート内容から
支援が必要な人を分類します

何らかの支援を要する人の割合

27年度 → 28年度(上半期)
34.3% → 57.7 %

母子保健コーディネーター
などによる支援として

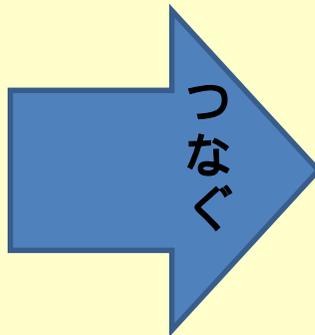
- ケアプランの作成
- 家庭訪問
- 必要な機関へ同行



適切な支援により育児困難や児童虐待を予防

こども支援センターげんき

ASMAP



きかせて子育て訪問事業

サポーターの訪問傾聴で子育ての孤立感を解消

子育てホームヘルプサービス事業

産前産後の妊産婦の家事を支援し、母親の心身の安定を図る

養育支援訪問【拡充】

専門相談員を増員し、養育支援の必要がある家庭の訪問体制を強化

こどもショートステイ事業

一時的に児童を施設や協力家庭で養育支援

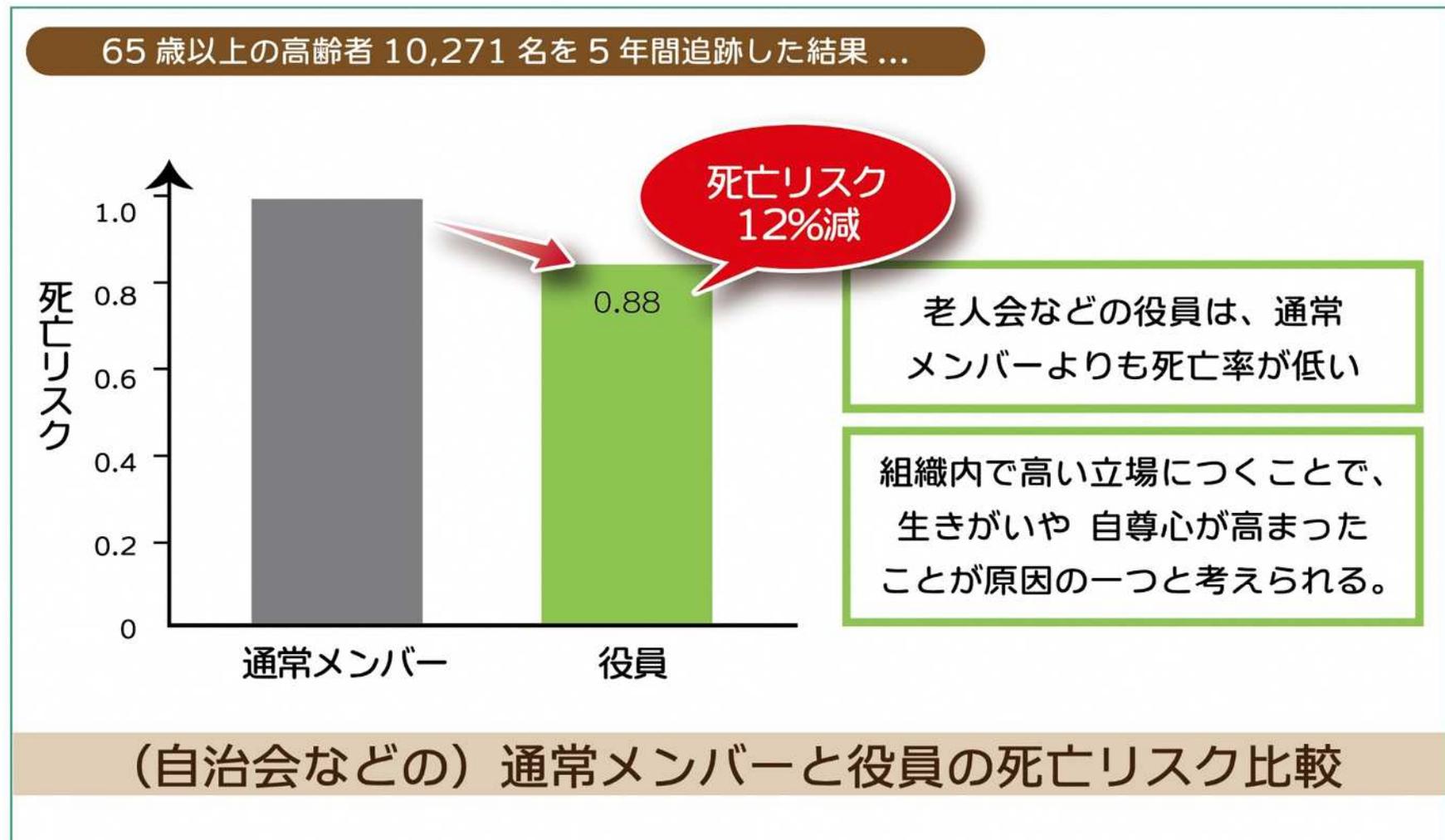
あだち・ほっとほーむ事業

有償ボランティアが育児・家庭援助、養育支援

地域とのつながりづくりによる 健康づくり

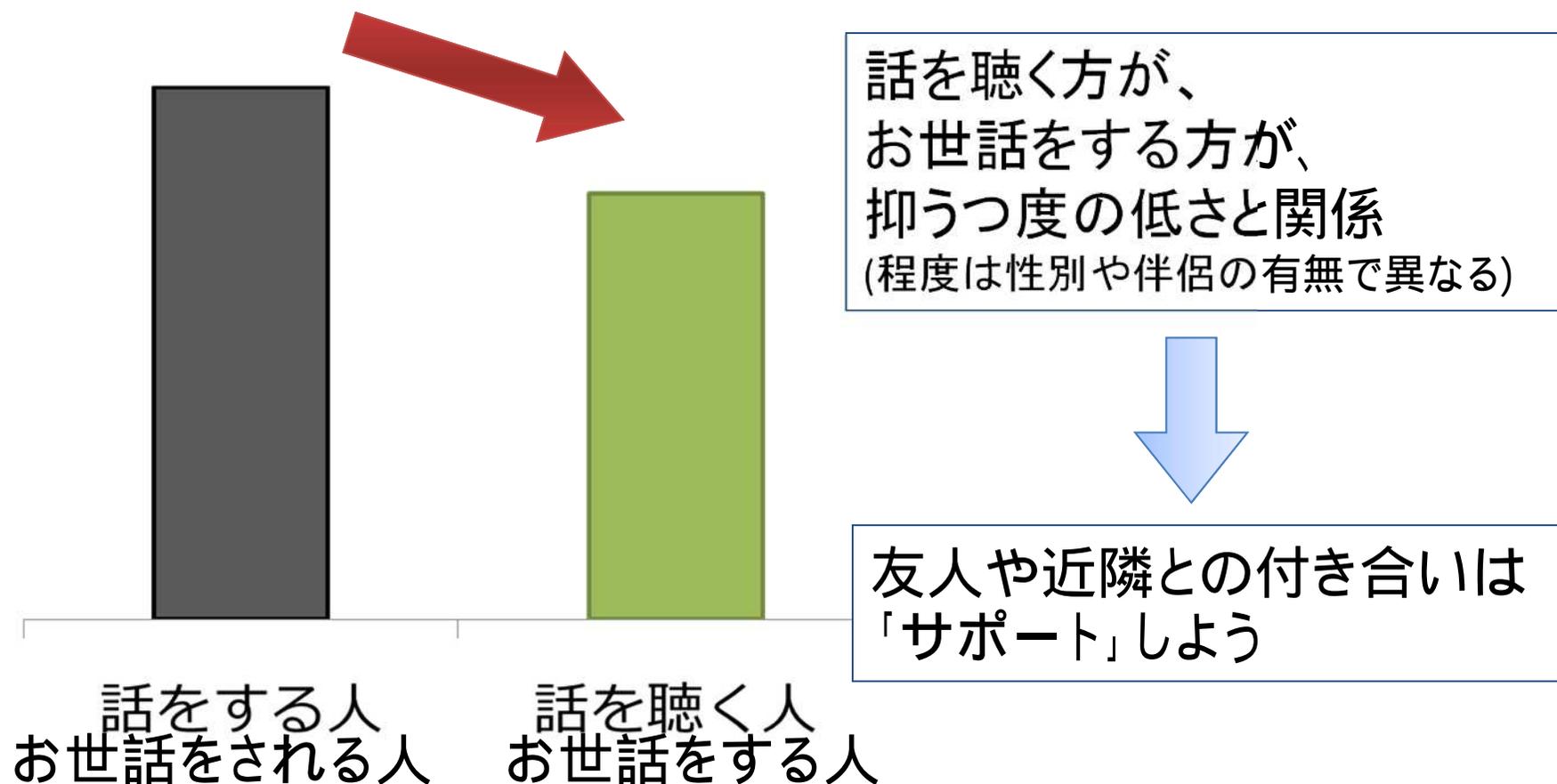
- 子どもが地域で**経験や体験を積む機会**を増やしてください
- 子ども食堂、放課後の活動など**第三の居場所**をご提供ください
- 既に地域で行われている行事、イベント、レクレーション活動に**実践的・体験的なプログラム**を入れてください(例えばバーベキューは、野菜を洗う、切るところから子どもと一緒に)
- **好ましい生活習慣が身につく**ような指導・声かけをお願いします

地域で役割ある 高齢者は長生きしやすい (死亡率12%減)



話を聴くと、 お世話をすると、心は健康

健康な高齢者(65~100歳:男性 11,869 名、女性 12,763 名)を対象に分



地域とのつながりづくりによる 健康づくり

- 子どもが地域で**経験・体験を積む機会**を増やしてください
- 子ども**食生活**や**生活習慣**の居場所
をご提供ください
- 既に地域の**レクリエーションプログラム**
を入れて、**野菜を洗う**（**野菜を洗う**は、**野菜と一緒に**）
- **好ましい生活習慣**が**子ども**によつて**指導・声かけ**をお願いします

子どもも大人も
健康に！

最後に...

自分の身体(からだ)を大切にすることは、
自分のこれからの人生を大切にすること。

ちょっとの我慢をして、
良い生活習慣を身につけよう！

野菜から食べよう！

朝ごはんを食べよう！

歯をみがこう！



子どもの健康が未来をつくる

